

## 『グレイテストライフ浅草』の概要

運 営：株式会社 グレイテストライフ

代表取締役 藤原 仁

形 式：サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）

基本的には60歳以上の方が入居可能

所 在 地：〒111-0025 東京都台東区東浅草2丁目22番5号

（浅草駅から約1.7km / 南千住駅から約1km）

電 話：03-5808-0740 / FAX：03-5808-0745

ホームページ：http://greatestlife.co.jp

敷地面積：574.47㎡（174.0坪）

延床面積：2,640.1㎡

構造規模：鉄筋コンクリート造地上8階

### ○ 基本サービス

- ・24時間見守り（安否確認・緊急時対応）
- ・生活、介護でのお困りごとのご相談

### ○ オプションサービス

- ・必要な方への介護
- ・デイサービス
- ・健康的でおいしいお食事の提供

○下記条件を満たせば、同居も可能です。（共益費、基本サービスは、同居人数に応じて変わります）

※「同居する者が配偶者（婚姻の届け出をしていないが事実上夫婦と同様の関係にある者を含む）、60歳以上の親族、要介護・要支援認定を受けている60歳未満の親族又は入居者が病気にかかっていること、その他特別な事情により当該入居者と同居させることが必要であると都道府県知事が認める者であること」（国土交通省・厚生労働省関係高齢者の居住の安定確保に関する法律施行規則（共同規則）3条より抜粋）



# 『グレイテストライフ浅草』は、最期まで輝きながら最高の人生「グレイテストライフ」を生きられる 新しい未来型響働モデルの《住まい》を構想しています

## 『グレイテストライフ浅草』の理念

### 「最高の人生」を生きる

「グレイテストライフ浅草」は、入居者の方々の魂の尊厳が大切にされ、最期まで輝きながら『最高の人生（グレイテストライフ）』を生きられる「新しい未来型響働モデルの《住まい》を創造すること」をめざしています。

地域に開かれながら、高齢者の皆さんが、子どもたち・障がい者・地域の皆さんと交流し、入居者の方々も「自助・互助・共助・公助」で支え、響き合って生活し、すべての方が明るく、楽しく生きられる「新しい響働の住まい方」に挑戦します。

### 最期まで「魂の尊厳」が大切にされるサービスに最善を尽くします

「グレイテストライフ浅草」の大きな特徴の一つ——。それは、私どもが人生の師と仰ぐ高橋佳子先生が提唱される「魂の学」に基づく人間観、すなわち、「人間は永遠の生命を抱く魂の存在である」という人間観を軸としたお世話や介護をめざしている、ということです。

その実現のために、心と技術を磨いたスタッフが、入居者の皆さまの「魂の尊厳」が大切にされるサービスの提供に最善を尽くします。スタッフは24時間常駐し、入居者の皆さまの認知症の予防や身体機能の回復をめざし、最期まで輝きながら生きるためのお手伝いをさせていただきます。

そして、健康寿命を延ばすプログラムの一助として、「認知症予防・改善」にとっても不可欠な「祈り・瞑想」ができる Quiet Room を8階最上階に設けています。

## 『グレイテストライフ浅草』の開設の願い

### 《高齢者の方々に、人間の尊厳を大切に最期まで輝いて生きてほしい——》

2012年10月、私は認知症を患っていた母を86歳で見送りました。

母は1950年、23歳の時にこの浅草の地で、父と一緒に婦人靴メーカーパイロットシューズを創業し、2002年に私に社長を引き継ぐまで、社業や地域の発展のために精力的にエネルギーを注いで生きてきました。しかし、その気丈だった母が80歳を過ぎた頃から物忘れが進行し、徐々に息子である私の名前すら呼べなくなり、「人格」を失っていく姿を目の当たりにすることになりました。

高齢者の方々に、人間の尊厳を大切に最期まで輝いて生きてほしい——。そのような願いから、この度、パイロットシューズが共に歩んで来たこの浅草の地で、子どもや高齢者の在宅診療を19年間手掛けてきた前田浩利医師と響働して介護事業に挑戦することを決断致しました。

(パイロットシューズ株式会社 代表取締役 藤原 仁)

### 《我が国の医療・福祉の新たなビジョン》

私は小児科医として、多くのがんや重い先天性の病気を持った子どもたちに出会ううち、どんな重い病気や障がいがあっても、家族と一緒に自宅で過ごせることが、何よりも子どもと家族にとっての幸せだと考えるようになりました。そして、19年前に在宅医療の世界に飛び込み、子どもだけでなく多くの高齢者の方々の在宅医療を経験してきました。

今、日本は、人類未曾有の超高齢社会、多死社会を迎えようとしており、そのビッグウェイブに、我が国の医療・保健システムは耐えきれないことが危惧されています。そして、国が選んだ選択肢が在宅医療の充実であり、慣れ親しんだ我が家で最期まで過ごすことができる体制の構築です。

全ての方の人生が輝くために——。0歳から100歳までの方を支える在宅医療こそ私の目標であり、我が国の医療・福祉の新たなビジョンだと思います。そして、それを形にすべく、私は、介護事業に対して、同じ理念を持つ藤原仁氏と志を一つにして新たな挑戦に向かいます。

(医療法人財団 はるたか会 理事長 前田浩利)

